

2024年度（令和6年度）市政懇談会

次の100年へ、更にその先の未来に向かって

福山 **100** 教育

NEN
SINCE2016

私たちの毎日が、未来になる。

9th year

目次

- 1 福山市立学校の現状
- 2 学校教育の取組
- 3 福山中・高等学校の取組
- 4 通学路の安全確保
- 5 コミュニティ・スクールの導入

福山市教育委員会
教育長 小林巧平

福山市立学校の現状



◆ 児童・生徒数（2024年5月1日現在）

小学校 69校 + 義務教育学校（前期）	} 2校	23,296人（対前年▲587人）
中学校 30校 + 義務教育学校（後期）		11,377人（ " +38人）
高等学校1校		592人（ " +5人）

合計 102校 35,265人（ " ▲544人）

2024年度の学校教育の取組

主体的・対話的で深い学び

- 「学び」の探究パイロット校事業の成果と課題に基づく継続・拡充
 - ◆ 幼保小中接続カリキュラムの編成
 - ◆ ICT活用の目的・場面・方法を明確化
 - ◆ 調査結果に基づく授業改善
- 教材研究を中心に据えた校内研修体制の構築・再構築
- 教職員がやりがいを実感する取組の充実
 - ♥ 一斉・指定・任意研修等の継続・充実
- 教職員の負担軽減につながる取組の充実
 - ♥ 日本語指導が必要な児童生徒の支援体制の整備
 - ♥ 統合型校務支援システム導入準備

元気・笑顔で学び続ける教職員

学びをつくる教職員研修

- 子ども・教材への理解を深める教材研究を中心に据えた研修の充実
 - ♠ 教科の専門性パワーアップ研修、子ども・教材への理解を深め授業力のUP
 - ♠ 教材研究を中心とした「市内一斉研修」「初任者研修」「校内研修」等
- 校内外フリースクール等の個別のサポート計画の作成・更新
 - ♣ アセスメントに基づく個別支援の充実
- 学校図書館運営委員会等の設置による学校が主体的に運営する学校図書館
 - ♣ 児童生徒・教職員・地域からの意見を踏まえた図書館運営

多様な学びの場の充実

主体的・対話的で深い学び

「学び」の探究パイロット校事業の推進

子どもと教材への理解を深める教材研究を土台として、子どもたちの学びを促すカリキュラムを編成・実施し、「学ぶ過程」の評価を工夫していく

パイロット校名	指定校
幼保小中学びの接続カリキュラム開発校	霞小 光小 緑丘小 加茂小 加茂中
効果的なICT活用実践研究校	長浜小 城東中
分析データを活用した授業改善実践校	誠之中学校区（誠之中、箕島小、曙小、新涯小）
地域とともにある学校づくり推進校	鞆の浦学園 想青学園 幸千中学校区（幸千中、千田小、御幸小）
アセスメントに基づく指導支援実践研究校	川口小 水呑小 久松台小 山南小 駅家西小 東朋中



【ICTを活用した授業実践】



【データを基に協議する校内研修】

幼保小中連携教育の推進

すべての子どもたちが、乳幼児期における子どもの自発的、創造的な遊びや体験を通じた育ちと学びを基礎としながら、安心感を持って小学校生活に円滑に移行し、自己を発揮し成長していくために、就学前教育と義務教育の連携・接続の仕組みを構築し、内容の充実を図る

◆ 幼保小連携教育の仕組み

- ・ 連携校区の編成 → 227施設が参加、63連携協議会を設置
- ・ 幼保小連携教育合同研修会の実施 → 年2回
- ・ 一斉研修における幼保小合同研修の実施 → 年2回以上

◆ 学びをつなぐカリキュラムの実施・改善

遊びや体験を通して育んだ言葉と数の知識や感覚を各教科の学習に活かす。

◆ 子どもの学ぶ姿から考える授業づくり

興味のあることから言葉と数の感覚を豊かにし、理解を深める授業づくりを進める。

〔2024パイロット校〕
光・霞小学校
緑丘小学校
加茂小・中学校



幼保小中連携へ発展

義務教育の終わりに身に付けてほしい力を意識し、幼保小中連携へ発展させる。

子ども・教材への理解を深める研修

全ての教職員が学びを促す授業実践力を高める市内一斉研修

各校・各グループで、研究テーマに基づき、教材研究を中心に据えた授業の実践・検証・改善を行う。

- ・教材研究の充実 子ども・教材への理解を深め、指導方法を見直す。
- ・校内研修体制の構築 子ども・授業の現状を自覚し、改善すべき課題に基づき、組織的に研究に取り組む。



【教職員が協議をしている場面】

一人一人の学びを促す授業実践研修

「子ども主体の学び」を追求する常石とともに学園の教職員とともに、言葉と数の深い理解に向けてた教育活動・教師の役割を考え、一人一人の学びを促す授業実践研究を行う。



【文章の順序を話し合っている場面】

教科の専門性パワーアップ研修

言葉と数が全ての教科の基盤であることを踏まえ、学習指導要領に立ち返りながら、教材研究、授業実践・検証・改善することを通して、子ども・教材への理解を深め、授業実践力を高める。



【単元づくりの考え方の説明】

多様な学びの場の充実

校内外フリースクールの充実

集団での学びが難しかったり、不登校傾向にあったりする児童生徒が自分らしく学べる場

- ◆一人一人に応じた学びを、児童生徒と一緒に考え、計画する。
- ◆1人1台端末を活用し、理解度に応じた学習や教室とのつながりを深める。
- ◆多様な活動の場を設定し、興味・関心、知的好奇心を醸成する。
 - * スポーツ（バドミントン、ボルダリング 等） * 自然体験（野菜栽培 等）
 - * 芸術（陶芸体験、楽器演奏 等） * IT（ドローン体験、プログラミング 等）



【個別学習スペース(学校)】

校内フリースクール「きらりルーム」

2024年度（令和6年度）5月末現在
小学校：27校 中学校：29校
義務教育学校：2校



【興味あることにチャレンジ】

校外フリースクール「かがやき」

	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)
利用者数	205人	238人	281人



【個別学習スペース（西部）】

〔市内3カ所〕
中央（北吉津）
東部（伊勢丘）
西部（松永）

外国人児童生徒の支援体制の充実

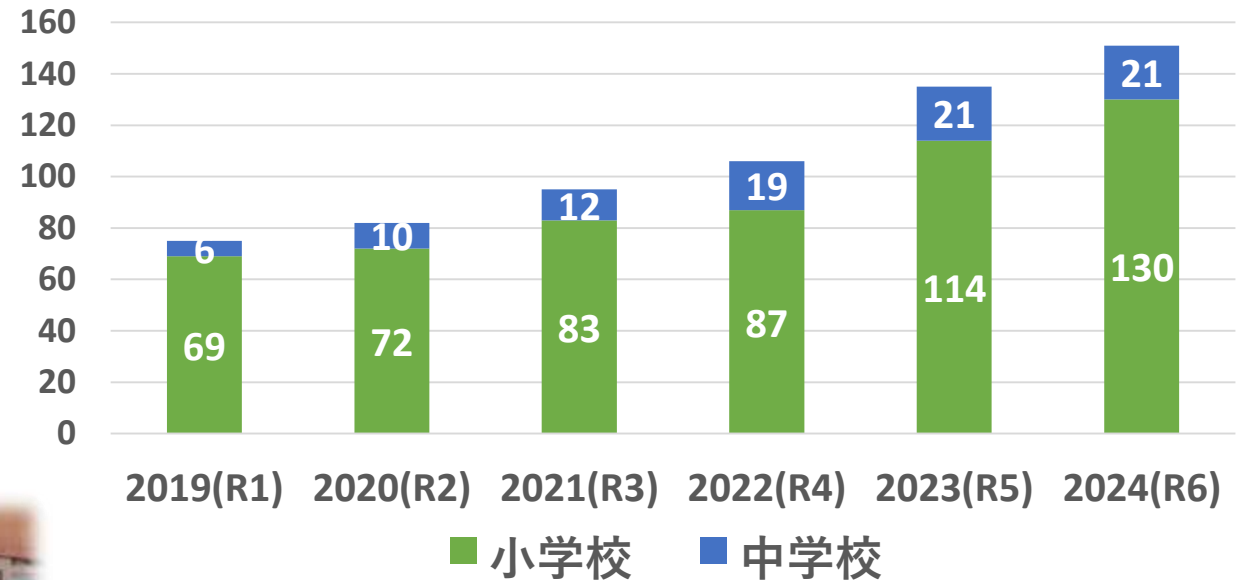
すべての子どもたちが安心して学び、生活できる環境を整える

- ・外国人児童生徒等教育に関する新たな教材の使用や研修を行い、指導力向上を図る。
- ・有識者や関係部局と協議会を立ち上げ、今後の取組を検討する。



◆ 現状

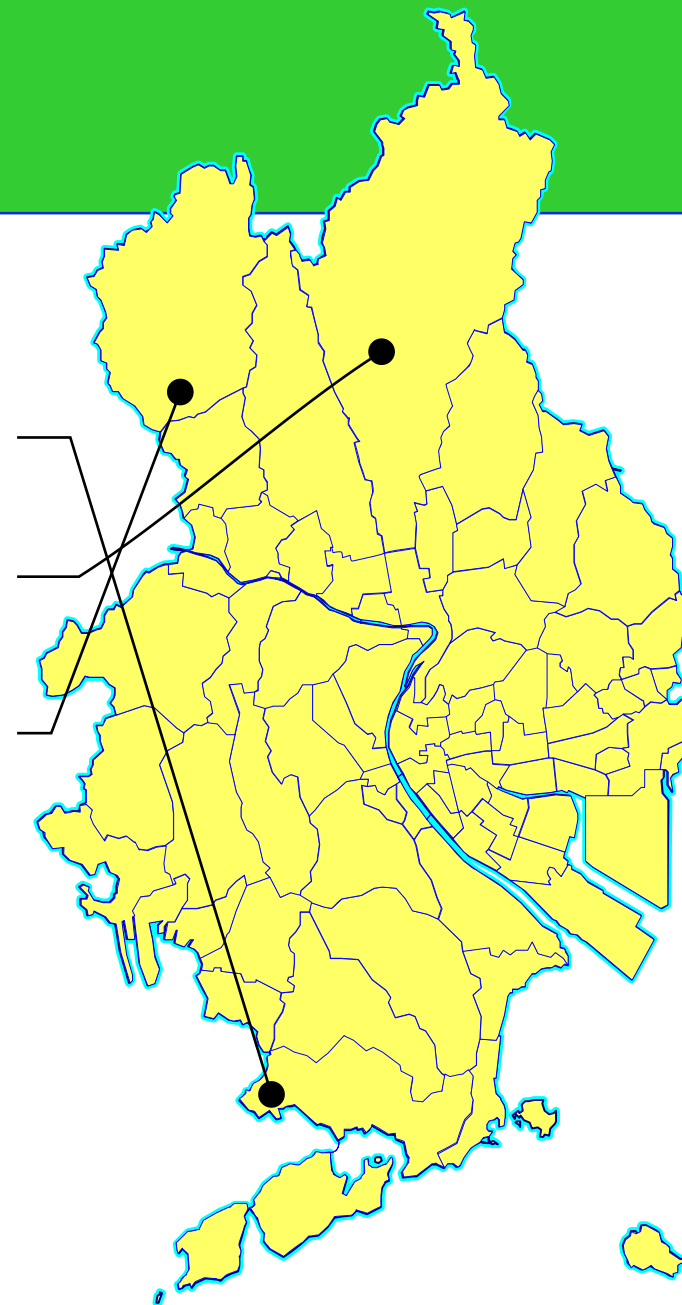
日本語指導を受けている児童生徒数（人）



- ・5年間で児童生徒数が倍増
- ・市立小中学校の約半数の学校に在籍
- ・国籍、言語、文化など、背景の多様化
- ・来日年齢の多様化

多様な学びの場の充実

開設	学校名	特色・特徴
2022	常石ともに学園	イエナプラン教育校
	広瀬学園小・中学校	特認校
2024	常金丸小学校	交流館との複合施設



多様な学びの場の充実



常石ともに学園



- イエナプラン教育校
(自立・共生・自己実現)
- 4つの基本活動に基づいた時間割
「対話」「遊び」「仕事※」「催し」
※ブロックアワー
：各教科の学びを自分で計画
※ワールドオリエンテーション
：学習した知識を活用し探究



広瀬学園 小・中学校



- 市内全域から通学できる特認校
- 独自教科「広瀬タイム」
 - ・地域の自然環境を教材に探究学習
- 少人数学級で一人一人のペースを尊重
- 特徴的な教育環境
 - ・パーソナル・マルチ・自然体験スペース等

多様な学びの場の充実



常金丸小学校



- 市内初の交流館との複合施設
- 旧常金中学校跡地に建設
- 施設の概要
 - ・ 鉄筋コンクリート造 2階建
 - ・ 小学校：1階の一部及び2階
 - ・ 交流館：1階の一部
 - ・ 共用：家庭科室・音楽室・ふれあいルーム

○コンセプト

- ・ 児童と多様な世代の地域住民との交流
- ・ 学びの場を拠点とした地域コミュニティの強化
- ・ コミュニティ・スクールの取組の充実

教職員がやりがいを実感する取組の充実

◆ これまでの業務量削減等の取組

- * 17時以降の電話連絡制限
- * 留守番電話設置
- * 授業時間原則5時間、夏休みの短縮
- * 統合型校務支援システムの導入準備
- * 図書館補助員、校務補助員、部活動指導員

〔教職員の時間・意識の状況〕

	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)
時間外在校等時間月45時間を超える教職員の割合	40.4%	29.3%	9.7%	12.4%	13.2%	14.9%
仕事にやりがいを感じていると回答した教職員の割合	92.3%	92.2%	92.6%	92.6%	91.0%	90.5%

H30→R5
25.5減

H30→R5
1.8減

◆ 教職員がやりがいを実感できるには

- * 「挑戦している」
- * 「教科が面白い」
- * 「個性が認められている」



学校で1番多くの時間を占める
教科の授業

◆ 教職員がやりがいを実感するために

一斉・指定・任意研修等の継続・充実
市教委の学校訪問による学校の自主自立の支援・促進



福山学校元気大賞

児童生徒の主体的な活動や教職員の丁寧な取組、学校・中学校区が丸となった教育活動において、結果のみならず取組の過程や見過ごしている行い等に着目し、表彰することを通して、みんなを元気にする。



地域一丸部門（日吉台小）

〔これまでの表彰数〕（件）

部門	表彰数								
	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R元)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)
あなたが素晴らしい	10	20	17	24	21	19	10	29	40
先生ありがとう	—	10	7	14	3	12	3	9	5
地域一丸	3	13	15	19	26	22	9	11	31
挑戦・継続→快挙	—	—	—	2	3	3	1	1	3
あなたの挑戦が素晴らしい☆	—	—	—	—	—	1193	1566	1633	1729



あなたが素晴らしい部門
（手城小）



先生ありがとう部門
（箕島小）



挑戦・継続→快挙部門
（駅家南中）

Rose&Peace教育

「世界バラ会議福山大会」を児童・生徒にとってまたとない学びの場・機会と捉え、「大好き！福山～ふるさと学習～」の一環として、全ての市立学校で「Rose & Peace教育」を進めている。

年度	取組
2023年度 (令和5年度)	「世界バラ会議福山大会」の開催を知り、ばらのまちづくりの歴史、栽培方法などばらへの興味・関心を深める。
2024年度 (令和6年度)	「ばら」を素材に児童生徒の興味・関心に応じた体験学習、探究学習などを、各校の特色に応じてカリキュラムに位置付け、実践する。
2025年度 (令和7年度)	体験学習、探究学習の過程や成果のアウトプットを通して、すべての児童生徒が「世界バラ会議福山大会」に関わる。
2026年度～ (令和8年度)	「世界バラ会議福山大会」を通して学んだことを活かし、「ばら」を素材にしたカリキュラムを発展させながら、継続する。



アネのばらを通じた国際交流（幸千中）



折りばらアートの作成（旭丘小）



第20回
世界バラ会議
福山大会
2025

School Rose Garden Project

◆参加校 41校

(1) 共通の取組

昨年度植えた世界バラ会議参加国や福山のばら苗を大切に育てるとともに、今年度も地域の方々の協力を得ながら、新しい苗を植え付け、栽培する。

(2) 独自の取組

各学校で取り組んでいる総合的な学習の時間やふるさと学習の単元（テーマ）・活動等と関連付け、「ばらのまち福山」や「世界バラ会議」を題材にした探究的な学習のカリキュラムを編成し、特色ある教育活動に取り組む。



ばら花壇の整備
(蔵王小)



ばらガーデンベンチの設置
(鳳中)



ばらの花びらでお香づくり
(光小)



☆ 特色ある教育活動

◆ 中高一貫教育

・ 教科学習

⇒ 中高6年間を見通して教科の本質を追究

・ 学校行事・部活動

⇒ 中高合同の学校行事や部活動による学びの深化、活動の活性化

◆ グローカル教育

・ 海外提携校等との交流（韓国浦項市 大東中学校・浦項高校など）

・ 海外語学研修（オーストラリア・フィリピン）

・ グローカル人材育成事業

⇒ 市内企業等と連携した地域課題・国際的な

課題などの探究&解決

☆ 寄宿舎の設置・運営

・ 赤坂一樹寮

⇒ 市内はもちろん、県内全域から選ばれる魅力ある学校に



通学路の安全確保

2022年度～
中学校も
対象へ

◆ 通学路の点検実施

「福山市通学路交通安全プログラム」に基づき実施

・ 地域の協力で、危険箇所を洗い出し

2014年度～2022年度
約 **3,000**か所

・ 合同点検 (道路管理者、警察などとも連携)



・ 対策

交差点等のカラー舗装
横断歩道の修復
交通安全指導 など



コミュニティ・スクールの導入

2026年度
までに
全中学校区
導入予定

◆ 学校運営協議会の設置

学校運営や学校の課題に対して、
広く保護者や地域の皆さんが参画できる仕組み

《学校運営協議会》

学校運営の
基本方針
学校運営・
教育活動



校長

承認



説明



意見



- 〈構成員〉 保護者代表、地域住民等
〈主な役割〉
- ・ 校長作成の学校運営基本方針の承認
 - ・ 学校運営について
教育委員会又は校長に意見を述べる

説明



意見



保護者・地域の皆さん

コミュニティ・スクールの導入

2026年度
までに
全中学校区
導入予定

2022（令和4）年度から導入

鞆の浦学園、想青学園

2023（令和5）年度から導入

広瀬学園小・中学校

常石ともに学園

加茂中学校区（加茂中、加茂小）

新市中央中学校区

（新市中央中、常金丸小、網引小、新市小、戸手小）

2024（令和6）年度から導入

幸千中学校区（幸千中、千田小、御幸小）

神辺西中学校区（神辺西中、神辺小）

福山中・高等学校



合同研修（鞆の浦・想青）



藍染体験（加茂）



導入に向けた研修（校長等）